

音楽アーティスト科 アーティスト総合コース 受講科目一覧 1年次

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間 45 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習Ⅰ（前期）	34	2	1
実習	分野別実習Ⅰ（後期）	34	2	1
講義	業界知識Ⅰ	72	2	4
演習	共同演習Ⅰ	68	2	4
講義	音楽理論/調音Ⅰ	68	2	4
講義	作曲編曲Ⅰ	68	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術Ⅰ	68	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術Ⅰ	68	2	2
実習	演奏/ダンス分野別基礎Ⅰ	68	2	2
実習	パフォーマンス実技Ⅰ	68	2	2
実習	サウンドアナライズⅠ	68	2	2
演習	アンサンブル基礎Ⅰ	68	2	4
演習	アンサンブル応用Ⅰ	68	2	4
実習	DAW・DTM基礎Ⅰ□	68	2	4
合計		888	28	40

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅠ		授業形態 / 必選	講義	必修		
	学則別表上表記	業界知識Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 全コース						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ☐	非該当 ☒
担当講師 実務経歴							
授業概要							
音楽業界に関わる様々な業種について理解を深めることで、音楽業界の仕組みを学ぶ。							
到達目標							
前期では音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割とコンサート業界、レコーディング業界の仕事内容について学びます。 後期では音楽ビジネスに関わる権利、著作権、印税の仕組み、著作物について学びます。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽業界の仕組み① 音楽業界のお仕事～プロダクションの働きについて理解する 音楽業界の仕組み② レコード会社の働きについて理解する 音楽業界の仕組み③ 音楽出版社とJASRACの働きについて理解する
【前期】 4～7回目	イベント・コンサート業界の仕組み イベント・コンサートに関わる各セクションの仕事について理解する コンサート制作の仕事 イベントやコンサート制作会社の働きについて理解する コンサートスタッフの仕事 舞台監督や各業種の仕事内容について理解を深める コンサート関連の技術系の仕事の流れ PA・照明・ローディーの仕事の流れについて理解を深める
【前期】 8～10回目	業界用語と舞台用語 業界や現場で使われる用語を理解する 音源制作の仕事① CDが出来るまでの流れと楽曲発注について理解する 音源制作の仕事② プリプロ～レコーディングの流れを理解する
【前期】 11～13回目	音源制作の仕事③ マスタリングについて理解を深める 音源制作の仕事④ ジャケット制作について理解する 音楽ビジネスの現状 変化する音楽産業とミュージシャンの収入について
【前期】 14～18回目	ここまでのまとめとテスト 前期テスト テストの解説
【後期】 19～21回目	音楽ビジネスに関わる権利 ① ミュージシャンに関わる権利について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ② 著作権について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ③ 実演家とレコード製作者の両方に認められている権利について理解する
【後期】 22～25回目	音楽ビジネスに関わる権利 ④ 原盤について理解する 著作権管理事業の現状 著作権管理事業について理解する JASRACの問題点 JASRACの功罪などについて理解する 著作権に関わる印税の仕組み① CD販売の場合の著作権使用料による印税収入などについて理解する
【後期】 26～28回目	著作権に関わる印税の仕組み ② 動画投稿(共有)における著作権使用料などについて理解する 著作権に関わる印税の仕組み ③ 放送使用における著作権使用料について理解する 著作隣接権に関わる印税の仕組み アーティスト印税の計算などについて理解する
【後期】 29～31回目	著作権にまつわる問題点 インターネットの普及でばら撒かれる海賊版の氾濫などについて理解する 著作物を利用する方法① ビジネス契約と著作権～「所有権」と「著作権」について理解する 著作物を利用する方法② 著作物の自由利用について理解する
【後期】 32～36回目	ここまでのまとめとテスト 後期テスト テストの解説
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。
学生へのメッセージ	仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	ホームルームも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オリジナルソングⅠ		授業形態 / 必選	演習	必修		
	学則別表上表記	共同演習Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	福岡を拠点とするシンガーソングライター。 「タイムバンク」CM歌唱、「福岡市公式VOICE～歌で伝えるエンジニアのホンネ～」にて作詞、歌唱を担当。 並行して行なっているバンド“ハルレイン”では「株式会社レンタル丸屋」のCM曲を提供。 ソロ、バンド共に「KBCお天気コンサート」にて多数の楽曲が放映されているほか、楽曲提供・エンジニアとしても活躍中。						
授業概要							
作詞作曲したオリジナル楽曲を中心に自由課題を歌い込み、洗練させるための指導。ライブやレコーディングなど、より実践的なステージへと繋げるための準備。							
到達目標							
・自らのブランディングに必要な各課題を年間を通して学習する。卒業後のアーティスト活動をイメージさせ歌い込むことで、アーティストとしての表現力を高める。							
・自作の曲をライブやレコーディングを想定しシュミレーションすることで、シンガーソングライターとしての活動の流れを把握する。 自らのプロデュースを研究し、広く世界に発信していく方法論を獲得していけるようにします。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	課題1。カバー曲推奨。楽曲の構成、歌詞を掘り下げ、オリジナル曲の参考にする。原曲と比べ、自身なりの表現を考える。カバー曲を通しオリジナリティを構築していく。
【前期】 4～7回目	課題2。カバー曲推奨。楽曲の構成、歌詞を掘り下げ、オリジナル曲の参考にする。原曲と比べ、自身なりの表現を考える。カバー曲を通し自身のオリジナリティを構築していく。
【前期】 8～10回目	課題3。オリジナル曲推奨。楽曲の構成、歌詞を掘り下げ、熟考する。オリジナル曲の譜面を作成。譜面の書き方を通してオリジナル曲への理解を深める。想いのまま表現するための技法習得、向上を目指す。
【前期】 11～13回目	課題4。オリジナル曲推奨。楽曲の構成、歌詞を掘り下げ、熟考する。オリジナル曲の譜面を作成。譜面の書き方を通してオリジナル曲への理解を深める。想いのまま表現するための技法習得、向上を目指す。
【前期】 14～17回目	課題5。オリジナル曲推奨。楽曲の構成、歌詞を掘り下げ、熟考する。オリジナル曲の譜面を作成。譜面の書き方を通してオリジナル曲への理解を深める。想いのまま表現するための技法習得、向上を目指す。
【後期】 18～20回目	課題6。オリジナル曲推奨。楽曲の構成、歌詞を掘り下げ、熟考する。オリジナル曲の譜面を作成。譜面の書き方を通してオリジナル曲への理解を深める。オリジナル曲のみでライブを実施。1ステージ2、3曲。楽曲のバラエティを考える。
【後期】 21～24回目	課題7。これまでに取り組んだ楽曲の一つを簡易レコーディングする。RECを通して楽曲が世に出るまでの仕組みを理解する。編曲について考える。RECを通して自身の楽曲、演奏技術を客観的に捉える。
【後期】 25～27回目	課題8。オリジナル曲推奨。楽曲の構成、歌詞を掘り下げ、熟考する。オリジナル曲の譜面を作成。譜面の書き方を通してオリジナル曲への理解を深める。想いのまま表現するための技法習得、向上を目指す。
【後期】 28～30回目	課題9。オリジナル曲推奨。楽曲の構成、歌詞を掘り下げ、熟考する。オリジナル曲の譜面を作成。譜面の書き方を通してオリジナル曲への理解を深める。想いのまま表現するための技法習得、向上を目指す。
【後期】 31～34回目	課題10。オリジナル曲推奨。楽曲の構成、歌詞を掘り下げ、熟考する。オリジナル曲の譜面を作成。譜面の書き方を通してオリジナル曲への理解を深める。オリジナル、カバーを含む1ステージ4曲ほどのライブを実施。ライブ構成を考える。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一つ一つの授業が自らのブランディングに直結していきます。必要なノウハウを学んで自己アピールの方法論を実践できるようにしましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	セオリー & キーボード I		授業形態 / 必選	講義	選択	
	学則別表上表記	音楽理論/調音 I	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■ 音楽アーティスト科 シンガーソングライター/ヴォーカル					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	KAN、浜崎あゆみ、林原めぐみなど様々なアーティストのバックコーラスやレコーディング制作に携わる。 23歳時にアニメセイバーマリオネットact5エンディング「風の詩を聴きながら」でメジャーデビュー。TVCMソング「マツモトキヨシ」他歌唱多数。 並行して、ヴォイストレーナーとして多数アーティスト(元学生はDAIGO、太田在etc)の指導を行っていた。 近年は80'sbar reflexハウスバンド歌手として毎週末stage歌唱、DISCO DJうらりーな、演劇ミュージカル出演活動もしている。昨年までコミュニティラジオ天神でサブパーソナリティもしていた。昨年デビューした福岡アイドルchitchatの専属ヴォーカルト レーナーもデビュー□前から現在している。					
授業概要						
音楽の基本的な決まり事を学ぶ「理論」と、音感を鍛える「聴音」の授業です。 理論では正確に楽譜を読み書きする能力を得ること、作曲の為の基礎知識を養うこと、音楽用語の意味を学びます。聴音では音程やリズムを耳で聴き取り、演奏や譜面におこすことができる能力を得ます。 また、様々なジャンルの音楽の基礎知識を学ぶことにより、音楽人に必要な力も養います。						
到達目標						
・音楽理論を学び、音楽人としての共通言語(専門用語)を習得する。 ・キーボード(鍵盤の音並び)の構造を理解して、読譜やシンプルなリズムのコード伴奏が出来るようになる。 ・音楽の基礎構造(音程、和音、リズム等)を理解する。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ウォーミングアップ発声、音符と休符、リズムのトレーニング、メジャースケール。
【前期】 4～7回目	インターバルの紹介、読譜。
【前期】 8～10回目	テンポとリズム、ブレスのメカニズム、音域チェック、FメジャーキーとGメジャーキー。
【前期】 11～13回目	ハモリ、123メロディー発声、タイと付点子音。
【前期】 14～17回目	歌と発声、5度圏、聴き取り(イヤトレ)、ハモリ練習。 ■前期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	1234メロディー発声、16分音符リズムトレーニング、ロングブレス。
【後期】 21～24回目	ピッチトレーニング、数字インターバル、ハモリ練習。
【後期】 25～27回目	12345メロディー発声、リズムチェック、サイエンステスト。
【後期】 28～30回目	ピッチトレーニング復習、インターバル、ハモリチェック。
【後期】 31～34回目	ヒット曲のメロディアナライズ。 ■後期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	理論をマスターして「なぜカッコ良いのか」「どうしてグッと来るのか」といったことが分かってくると、「気持ちをこめる」だけでなく「気持ちを伝える」表現豊かな音楽ができるようになるでしょう。 また、なんといってもミュージシャンは耳が命です。音楽からいろんなアイデアをキャッチできるようになりましょう。 他にも、理論や聴音を学ぶことは、今後の歌唱・演奏や作曲の手助けになるにもなります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ソングライティングⅠ		授業形態 / 必選	講義	選択		
	学則別表上表記	作曲編曲Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター/サウンドクリエイター						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	幼少の頃から本格的にクラシックピアノを20年間学び、コンクール等で多数受賞。 現在は自身で作詞作曲をジャンル問わず行いながら、鍵盤などで多くの演奏サポートや制作に携わる。 これまでに発表した作詞・作曲作品、またアレンジした楽曲は80曲以上ある。						
授業概要							
作詞作曲に必要なアイデアを増やす。メロディー作り。コード進行の構築。リズムの種類に対する理解。作文・ポエムにならないような曲作り。							
到達目標							
・学生が作曲する作品の多くは偏ったジャンル、かつ狭い範囲で作成することが殆どである為、学生が持ち合わせていない作詞作曲に関する知識、情報、テクニックを紹介し、センスの幅を広げてもらう。							
・学生本人が持つ個性を自覚し、その個性を武器として、卒業後もその個性を追求し、アーティストとして作品作りが出来るようにする。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽の3大要素、メロディ、リズム、ハーモニーと共に、主題、形式、調性、拍子、テンポなど楽曲を構築する音楽の基盤を理解する。歌詞の構成とセクションごとの役割について。
【前期】 4～7回目	スリーコードで楽曲を作成。コードの響きと構成、役割を理解する。メジャースケールを用いたメロディの作成。Keyの概念を理解する。様々な歌詞の分析。フレーズから読み取れる情景や感情を読み取る。
【前期】 8～10回目	ダイアトニックコードで楽曲を作成。カデンツを構築し、コードの役割の理解を深める。代理コード、セカンダリードミナントなどを用いて、コード進行のバリエーションを考える。テーマに沿った歌詞を執筆。文法について解説。
【前期】 11～13回目	王道のコード進行で楽曲を作成。昨今のJ-Popにおいて楽曲の構成を研究。ダイアトニックコードとの関係を分析し、使い方の理解を深める。リズムによる印象の捉え方の違いを考え、歌詞の内容や感情に沿った楽曲制作を目指す。
【前期】 14～17回目	テーマに沿った楽曲を作成。前期授業で得た知識、情報を用いて自由に制作。自身の歌唱技術や演奏技術とのバランスを考慮し、理想のアーティスト像に向けて今後の取り組み方を考える。 ■前期試験:楽曲の制作により「作曲のクオリティ/作詞のクオリティ/音楽要素の理解」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	様々なテンポ、リズムで楽曲を作成。テンポやリズムの違いにより受ける印象を考察。弾き語る際の楽器のアプローチを解説。循環コード、強進行について。韻を踏むワード。言葉のリズムを考える。
【後期】 21～24回目	3拍子、6/8拍子、3連のリズムで楽曲を作成。4/4拍子との違いを研究し、拍子の概念を深める。弾き語る際の楽器のアプローチを解説。メロディと言葉のリズムの密接な関係を捉え、拍子や楽曲のリズムに合ったメロディを作成。
【後期】 25～27回目	分数コードを用いて楽曲を作成。コードの構成におけるルート音、ベース音を理解する。テンションコードが与える印象の変化を捉える。ディミニッシュコードの様々な使い方を解説。メロディに言葉を詰める。空白を作る。
【後期】 28～30回目	転調を用いた楽曲を作成。転調の使い方やそれが与える印象について。部分転調、モーダルインターチェンジについて解説。Keyへの理解を深める。歌詞において、時間の流れを感じるの構成、対比する構成を考える。
【後期】 31～34回目	これまでの授業で得た知識、情報、技術を用いて自由に制作。自身の思い描く表現を形にする。 ■後期試験:楽曲の制作により「作曲のクオリティ/作詞のクオリティ/音楽要素の理解」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「作詞/メロディー/制作楽曲/メジャー、マイナーキーの理解/ダイアトニックコードの理解」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	作詞作曲は、シンガーソングライターやその他の音楽業界に於いても核となるとも重要な業務です。そして活動の限り作り続けていかなければなりません。楽曲へアウトプットしていくために必要な情報や知識のインプットとその方法を、様々な角度から音楽に触れて楽しみながらしっかりと学んでいきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォーカルサイエンス/テクニックⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	福岡や熊本を拠点とし、プロダクションや個人レッスン等でヴォイストレーナーとして幅広く活動中。ハリウッド式メソッドを中心としたヴォイストレーニングを採用。SSWオリジナル曲のヴォーカルディレクションやプロダクション所属アイドルへの歌唱指導など、各ジャンルに応じた歌唱力・表現力向上の為の技術指導を行う。					
授業概要						
発声のメカニズムを理解し、歌唱に必要なテクニックを身につける。						
到達目標						
・チェストボイス、ヘッドボイスなどの基礎発声ができるようになる。 ・発声のメカニズムを理解した上での基礎発声練習を通して自身の声域を拡げる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	教科書使用(ボイス理論1～3)チェスト開発
【前期】 4～7回目	教科書使用(ボイス理論4～7)チェスト開発
【前期】 8～10回目	教科書使用(ボイス理論8～10)ヘッド開発
【前期】 11～13回目	教科書使用(ボイス理論11以降)ヘッド開発
【前期】 14～17回目	教科書使用(ボイス理論まとめ) ■前期試験:課題曲の歌唱により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の到達度、理解度を確認する。
【後期】 18～20回目	チェストとヘッドのバランス／共鳴作り
【後期】 21～24回目	チェストとヘッドのバランス／共鳴作り
【後期】 25～27回目	ミドルボイス開発
【後期】 28～30回目	ミドルボイス開発
【後期】 31～34回目	基礎発声練習(ミドルボイスの開発・定着) ■後期試験:課題曲の歌唱により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	テクニックだけが大事なものではありませんが、そのテクニックへの理解を深めることにより自由な表現への足がかりとなります。思考のパターンをプロ仕様へと変更していきましょう。
備考	使用教科書「ヴォーカルテクニック」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォイストレーニングⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター/ヴォーカル/ダンスヴォーカルパフォーマー					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当	■	非該当 □
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀熱気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画への楽曲提供なども行なっている。					
授業概要						
ヴォイストレーニングを通し、正しい発声の仕方、音域の拡張、共鳴のさせ方を学習していきます。 ウォーミングアップの方法・腹式呼吸の習得・表情筋の使い方・母音を正しく響かせる口の開け方など。 また、歌唱の基礎であるチェストヴォイス～ミックスヴォイス～ヘッドヴォイスの声区融合とリズム感も併せて学習します。						
到達目標						
・様々なスケールを用い、チェストヴォイス～ミックスヴォイス(ミドル)～ヘッドヴォイスの声区融合を身に付けます。						
・4分音符、8分音符、1拍3連、16分音符のリズムを体で理解し、歌唱へ反映させていく技術を習得します。						
・様々な歌唱テクニックを習得し、歌唱へ反映させていく力を身に付けます。						
・歌唱するのに必要なリズム感を養い、自身の持つ声をより向上させ、様々な共鳴・声色を習得します。						
・正しい音を耳(脳)へと伝え、それを表現するための方法を身につけます。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	発声練習の目的 / 要素と役割 / ストレッチ / 腹式呼吸 ウォーミングアップ ～ハミング・リップロール・表情筋・あくび～
【前期】 4～7回目	低音の響き①～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き①～声帯～ / 高音の響き①～裏声・ミックスヴォイス～
【前期】 8～10回目	低音の響き②～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き②～声帯～ / 高音の響き②～裏声・ミックスヴォイス～
【前期】 11～13回目	総合的反復練習 / 課題曲①（発声に意識して歌唱してみる）
【前期】 14～17回目	総合的反復練習 / 課題曲②（発声に意識して歌唱してみる） ■前期試験：筆記と発声の試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の到達度、理解度を確認する。
【後期】 18～20回目	発声練習の目的 / 要素と役割 / ストレッチ / 腹式呼吸 ウォーミングアップ ～ハミング・リップロール・表情筋・あくび～
【後期】 21～24回目	低音の響き③～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き③～声帯～ / 高音の響き③～裏声・ミックスヴォイス～
【後期】 25～27回目	低音の響き④～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き④～声帯～ / 高音の響き④～裏声・ミックスヴォイス～
【後期】 28～30回目	総合的反復練習 / 課題曲③（発声に意識して歌唱してみる）
【後期】 31～34回目	総合的反復練習 / 課題曲④（発声に意識して歌唱してみる） ■後期試験：筆記と発声の試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の3項目の到達度、理解度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	発声とリズムは歌唱の基礎で最も重要な技術です。発声練習は自分の声質を把握し、より良くなっていくために欠かせません。チェストヴォイス(地声)の音域はトレーニング次第で伸ばすことができます。高く歌えないと思っていた楽曲でもトレーニング次第で歌えるようになります。また、裏声や低音域をしっかりと鍛えることで、歌唱の中で使える音色を多く習得することが可能です。自分の音域や癖をしっかりと把握しトレーニングに励み、歌える楽曲の幅を広げましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	キーボード		授業形態 / 必選	実習	選択		
	学則別表上表記	演奏/ダンス分野別基礎 I	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	■ 音楽アーティスト科 シンガーソングライター(シンガーソングライター専攻)						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	幼少の頃から本格的にクラシックピアノを20年間学び、コンクール等で多数受賞。 現在は自身で作詞作曲をジャンル問わず行いながら、鍵盤などで多くの演奏サポートや制作に携わる。 これまでに発表した作詞・作曲作品、またアレンジした楽曲は80曲以上ある。						
授業概要							
コード(和音)について理論的に学び、様々なコードやリズムパターンを学ぶ。また鍵盤楽器への造詣を深めることにより音楽全般への理解を音感・聴音などの観点からもその向上をはかる。							
到達目標							
・キーボードに触ることに慣れ、コードネームだけで鍵盤で伴奏できるようになる。							
・簡単なフレーズ類例をもとに左手で低音、右手で主旋律を奏でられるようにトレーニングを実施し、両手で楽曲を演奏できるようにする。							
・楽曲を一度聞いた後、初見でコード譜を演奏できるようにする。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	鍵盤の位置を覚えてドレミを弾いてみよう(運指) 【理論】スケール (Major, minor) コードについて (Major, minor) 【理論】コードの構成を覚えたら、弾いてみよう (C G F Am) 【Let it be】
【前期】 4～7回目	【実践】左手を使ってみよう 猫踏んじやった 【理論】曲を弾いてみよう (C G F Am) 【Let it be】
【前期】 8～10回目	【実践】曲を弾いてみよう (C G Em Am D B Bm) 【上を向いて歩こう】 【理論】おしやれコードについて (トライアド、7th、sus4など) 【実践】上を向いて歩こう Bメロ込み
【前期】 11～13回目	【課題曲】上を向いて歩こう・Lemon
【前期】 14～17回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見ながら弾いてみよう ■前期試験:課題曲の演奏により「リズム / コード(和音) / 演奏力 / 理解力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見ながら弾いてみよう
【後期】 21～24回目	【課題曲】コード譜をもとにサイズ譜を作ってみよう(小節の数え方、繰り返し記号の書き方など、基本的な採譜に必要な知識の習得)
【後期】 25～27回目	【自由曲】好きな曲を、サイズ譜を作成しメロディーラインとともに弾いてみよう
【後期】 28～30回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見てメロディーラインとともに弾いてみよう
【後期】 31～34回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見てメロディーラインとともに弾いてみよう ■後期試験:課題曲の演奏により「リズム / コード(和音) / 演奏力 / 理解力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / コード(和音) / 演奏力 / 理解力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	キーボードを演奏するには、まずキーの概念や和音の構成など簡単な音楽理論を理解することが必要です。また、左手ではベースラインでリズム感を出し、右手で和音を出していきます。最初は左右違う動きをすることやコードを覚え瞬時に和音を抑えるのに手こずるかもしれませんが、いつのコードだけで弾ける簡単な曲から始めていきますので安心してください。コード譜があれば伴奏できる・弾き語りができるレベルまで頑張りましょう。
備考	参考書「ピアノコード表」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	シングルストリングス&スケールⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	・奥本亮、清水麻八子等、アーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・流星群少女、茜つばき、初めてガールズ！、トキライキル等、アーティストのレコーディング時のバックアップミュージシャン その他、ギターに関する教則本やDVDを数多く手掛ける。				
授業概要					
スケールを理論面、そして演奏技術面から学び、様々な音楽スタイルでのリード演奏、メロディー作り、インプロヴィゼーションの方法論を学ぶ。					
到達目標					
・スケールを理論的に把握し、コードおよびコード進行との関係を理解する。					
・リードプレイに関わる演奏技術を習得し、あらゆる音楽スタイルでの演奏を可能にする。					
・ダイアトニックを中心に構成された音楽上でスケールや演奏法を自身で選択し、ミュージカルに演奏できる。					
・ある演奏内容に対して、最善の演奏法を自身で分析出来る。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	メジャーペンタ&メジャースケール [#1、#3] マイナーペンタ&ナチュラルマイナースケール[#2 & #4] の修得
【前期】 4～7回目	スケールの学習方法とトレーニングアイディア、メジャー & マイナー・トライアドの基礎ポジション修得
【前期】 8～10回目	スケールとアルペジオを融合させる考え方と奏法の学習、コード進行を考慮したインプロヴィゼーション
【前期】 11～13回目	メジャー系 #2、#4、#5とマイナー系 #1、#3、#5の5ポジションを修得
【前期】 14～17回目	ブルース・ナリティの基礎学習、前期まとめ ■前期試験:課題曲の演奏により「スケールポジション把握 / リズムキープ / 正確なピッチ / 確実な発音」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	ブルーススケールとその発展系スケールの学習、ドリアンスケールに関する学習
【後期】 21～24回目	ミクソリディアンスケールに関する学習、 ドリアン・ミクソリディアン・ペンタトニック系を融合させた演奏法の学習
【後期】 25～27回目	フリジアンスケールに関する学習、 ロクリアンスケールに関する学習
【後期】 28～30回目	各スケール理解度のチェック、使用法の熟成、スケールにまつわるオプショナルな知識
【後期】 31～34回目	総合復習 ■後期試験:課題曲の演奏により「スケールポジション把握 / リズムキープ / 正確なピッチ / 確実な発音」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「スケールポジション把握 / リズムキープ / 正確なピッチ / 確実な発音」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	私たちが夢になっている音楽、その中でもとりわけメロディーなどを生み出すもとになっているスケール理論を学ぶということは非常に重要かつ有意義です。「なぜこのメロディーに感動するのか?」「なぜこれを聞くと悲しい気持ちになるのか?」「このメロディーはどのようにして生まれたのか?」これらの疑問を解決し理解する手掛かりになるでしょう。またギターテクニックの飛躍的な向上はもちろん、効率的で生産的な練習法も学べます。
備考	使用教科書「Single Strings 1」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	歌唱実習Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	選択		
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅠ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	■ 音楽アーティスト科 シンガーソングライター/ヴォーカル/ダンスヴォーカルパフォーマー						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	音楽大学ミュージカル科首席卒業。声楽歴25年、バレエ・ジャズダンス歴15年、「タイムフライズ」「ゴースト」「魔法のオルゴール」などミュージカル多数出演。水樹奈々アリーナコンサート、白寿ホールコンサート、その他コンサートMCやレコーディング、TBSドラマなども出演。歌唱・ボイストレーニング講師として、AKB48、HKT48、スターダストプロモーション福岡、ばってん少女隊のボーカルコーチ、子役から劇団四季劇団員指導なども行う。また、コーチングの国際資格を活かし、メンタルサポートも行う。						
授業概要							
バラードやアップテンポといったテーマに合わせて自分で選んだ曲を歌い、講師や他学生からの感想やアドバイスをもらいながら磨いていく授業です。							
到達目標							
自分が歌うだけでなく、他者の歌唱を聞いて、見て、【音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力(表情や身振り手振り、パフォーマンス)】の4つの観点から観察、考察します。 【歌う】【聞く】【考える】のサイクルで授業を進めます。他者の歌を客観的に分析することで自身の歌唱とも向き合い、技術を磨いていきます。 また、同じ曲を数週間歌い続けることにより楽曲への理解を深め、より表現力豊かな歌唱を目指します。							
歌唱力だけを磨くだけでなく、「オーディションで結果を出す」「ライブでお客様に楽しんでもらう」ステージングを意識した歌唱ができるようになる。 自身の歌唱の魅力に気づき、活かすことができる。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【自由曲①(バラード)】ロングトーンなど、歌唱の魅力が全面に出るバラードを歌います。
【前期】 4～7回目	【自由曲②(アップテンポ)】リズム感を意識した歌唱を習得します。
【前期】 8～10回目	【自由曲③(完全自由曲)】ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【前期】 11～13回目	【自由曲④(完全自由曲)】ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【前期】 14～17回目	【自由曲①～④より選択】これまで歌い込んできた曲をもう一度歌うことにより楽曲、歌唱への理解を深め、より自分の魅力を引き出す歌唱を目指します。 ■前期試験：課題曲の歌唱により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【自由曲⑤(洋楽)】言語の壁はもちろんのこと、リズムや表現方法などが全く日本の楽曲と異なります。どんなジャンルでも歌えるシンガーになるために様々な楽曲への歌唱のアプローチ法を考察します。
【後期】 21～24回目	【自由曲⑥(楽器とのデュオ)】ギターもしくはピアノ単体の演奏とともに歌唱します。ドラムやベースなどが入ったカラオケ音源の華やかな演奏と対極な、歌と楽器のみのデュオ演奏の歌唱アプローチ法を考察します。
【後期】 25～27回目	【自由曲⑦(完全自由曲)】ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【後期】 28～30回目	【自由曲⑧(完全自由曲)】ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【後期】 31～34回目	【自由曲①～⑧より選択】これまで歌い込んできた曲をもう一度歌うことにより楽曲、歌唱への理解を深め、より自分の魅力を引き出す歌唱を目指します。 ■後期試験：課題曲の歌唱により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ボーカリストとして様々なジャンルが歌えるようになることは必須です。講師や他学生からのフィードバックを聞きながら自分の魅力や武器を見つけ、「オーディションで結果を出す」「ライブでお客様に楽しんでもらう」「職業ミュージシャンとして即戦力になる」といったより実践的な歌唱を目指します。また、他者と歌を客観的に分析することにより、自分の歌唱を磨くためのヒントが見つかることも多くあります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブスタイル実習Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択	
	学則別表上表記	アンサンブル基礎Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	シンガーソングライターとして福岡を拠点に活動。 楽曲リリースやライブ出演のほか、CM歌唱・ラジオ出演、台湾フェス出演など幅広く音楽活動を行う。 アコースティックセッションユニット「ぶらそにか」、バンド「MuchaMuchaM」のメンバーとしても活動中。					
授業概要						
テーマ毎に課題楽曲を用い、バンドアンサンブルを通して歌唱、演奏、リズム、サウンド、アレンジ、パフォーマンスなど様々な角度から楽曲の表現技術を習得します。						
到達目標						
・リズムや小節、拍の概念を理解する。・サウンドやリズムによる曲に対しての表現効果を理解する。 ・実践に近い形でステージパフォーマンスのイメージをつける。また、機材の使い方や現場での立ち振る舞いを習得する。 ・リズムや小節・拍を理解することで、他パートと合わせて曲を進行することができる。 ・表現効果を理解することで、楽曲テーマ、イメージに沿ったサウンド作りができる。 ・実際の現場、ステージでプロ意識を持ち対応できる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【課題曲①】楽曲の考察と、歌唱の練習。 【課題曲①】アンサンブルにて拍、小節、リズムの把握。他パートとのコミュニケーションをはかる。マイクの使い方やその他機材の理解。
【前期】 4～7回目	【課題曲②】楽曲の考察と、歌唱表現の練習。 【課題曲②】アンサンブルにて楽曲に対する他パートのアプローチを考察。自分なりの解釈で、歌唱表現を練習。 【課題曲②】実践を想定し、パフォーマンスの練習。→動画チェック。
【前期】 8～10回目	【課題曲③】楽曲の考察と、歌唱表現の練習。メロディーとリズムの関連を理解。 【課題曲③】アンサンブルにて他パートとメロディーのリズムの兼ね合いを確認、練習。 【課題曲③】実践を想定し、パフォーマンスの練習。→動画チェック。
【前期】 11～13回目	【課題曲①～③】ライブ発表会に向け、各自選択曲を復習。再度アンサンブルにて楽曲考察、歌唱、表現、パフォーマンスの練習。 【課題曲①～③】機材の使い方について再度確認。発表会当日に行うステージでの流れを確認。
【前期】 14～17回目	【課題曲④】楽曲の考察と、様々なアーティストによるカバーを参照し、各自アレンジを思考。歌唱、表現の練習。 【課題曲④】アンサンブルにて各自アレンジの思考を他パートへ伝える。→伝え方や知識、情報の収集。思考力の重要性を意識する。 ■前期試験：課題曲の歌唱、演奏により「リズム / 表現力 / 他パートとのやりとり / 機材の使い方」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【課題曲⑤】楽曲の考察と、歌唱表現の練習。 【課題曲⑤】アンサンブルにて楽曲に対する他パートのアプローチやリズムによる表現効果を考察。 【課題曲⑤】実践を想定し、パフォーマンスの練習。→動画チェック。
【後期】 21～24回目	【課題曲⑥】楽曲の考察と、歌唱表現の練習。コーラスワークの練習。 【課題曲⑥】アンサンブルにて楽曲に対する表現効果を考察。自分なりの解釈で、表現練習。コーラスワークの練習。 【課題曲⑥】パフォーマンスの練習。→動画チェック。
【後期】 25～27回目	【課題曲⑦】楽曲の考察と、歌唱表現の練習。コーラスワークの練習。 【課題曲⑦】アンサンブルにて楽曲に対する表現効果を考察。自分なりの解釈で、表現練習。コーラスワークの練習。 【課題曲⑦】パフォーマンスの練習。→動画チェック。
【後期】 28～30回目	【課題曲⑧】オリジナル楽曲を課題とする。楽曲の考察、歌唱表現の練習。アレンジの思考。資料の作成。 【課題曲⑧】アンサンブルにて自身楽曲アレンジの思考を他パートへ伝える。表現試行。 【課題曲⑧】パフォーマンスの練習。→動画チェック。
【後期】 31～34回目	【課題曲⑤～⑧】ライブ発表会に向け、各自選択曲(主にオリジナル)を復習。再度アンサンブルにて楽曲考察、歌唱、表現、パフォーマンスの練習。 【課題曲⑤～⑧】1年間のまとめ。発表会当日に行うステージでの流れを確認。 ■後期試験：課題曲の歌唱、演奏により「リズム / 表現力 / 他パートとのやりとり / 機材の使い方」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / 表現力 / 他パートとのやりとり / 機材の使い方」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音楽の表現に確固たる「正解」というものではありませんが、言葉や音、リズムによって感じる効果は概ね共有できます。その効果を自身の演奏だけでなく他パートの音やフレーズも交えながら習得していくことで、自身のライブステージや楽曲制作においてより明確に理想を具現化することができます。また、他の音をイメージすることで弾き語りでの表現力も高まります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブパフォーマンス実習Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択	
	学則別表上表記	アンサンブル応用Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	シンガーソングライターとして福岡を拠点に活動。 楽曲リリースやライブ出演のほか、CM歌唱・ラジオ出演、台湾フェス出演など幅広く音楽活動を行う。 アコースティックセッションユニット「ぶらそにか」、バンド「MuchaMuchaM」のメンバーとしても活動中。					
授業概要						
テーマ毎に課題楽曲を用い、バンドアンサンブルを通して歌唱、演奏、リズム、サウンド、アレンジ、パフォーマンスなど様々な角度から楽曲の表現技術を習得します。 ※アンサンブル基礎Ⅰのニコマ目として実施						
到達目標						
・リズムや小節、拍の概念を理解する。・サウンドやリズムによる曲に対しての表現効果を理解する。 ・実践に近い形でステージパフォーマンスのイメージをつける。また、機材の使い方や現場での立ち振る舞いを習得する。 ・リズムや小節・拍を理解することで、他パートと合わせて曲を進行することができる。 ・表現効果を理解することで、楽曲テーマ、イメージに沿ったサウンド作りができる。 ・実際の現場、ステージでプロ意識を持ち対応できる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【課題曲①】楽曲の考察と、歌唱の練習。 【課題曲①】アンサンブルにて拍、小節、リズムの把握。他パートとのコミュニケーションをはかる。マイクの使い方やその他機材の理解。
【前期】 4～7回目	【課題曲②】楽曲の考察と、歌唱表現の練習。 【課題曲②】アンサンブルにて楽曲に対する他パートのアプローチを考察。自分なりの解釈で、歌唱表現を練習。 【課題曲②】実践を想定し、パフォーマンスの練習。→動画チェック。
【前期】 8～10回目	【課題曲③】楽曲の考察と、歌唱表現の練習。メロディーとリズムの関連を理解。 【課題曲③】アンサンブルにて他パートとメロディーのリズムの兼ね合いを確認、練習。 【課題曲③】実践を想定し、パフォーマンスの練習。→動画チェック。
【前期】 11～13回目	【課題曲①～③】ライブ発表会に向け、各自選択曲を復習。再度アンサンブルにて楽曲考察、歌唱、表現、パフォーマンスの練習。 【課題曲①～③】機材の使い方について再度確認。発表会当日に行うステージでの流れを確認。
【前期】 14～17回目	【課題曲④】楽曲の考察と、様々なアーティストによるカバーを参照し、各自アレンジを思考。歌唱、表現の練習。 【課題曲④】アンサンブルにて各自アレンジの思考を他パートへ伝える。→伝え方や知識、情報の収集。思考力の重要性を意識する。 ■前期試験：課題曲の歌唱、演奏により「リズム / 表現力 / 他パートとのやりとり / 機材の使い方」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【課題曲⑤】楽曲の考察と、歌唱表現の練習。 【課題曲⑤】アンサンブルにて楽曲に対する他パートのアプローチやリズムによる表現効果を考察。 【課題曲⑤】実践を想定し、パフォーマンスの練習。→動画チェック。
【後期】 21～24回目	【課題曲⑥】楽曲の考察と、歌唱表現の練習。コーラスワークの練習。 【課題曲⑥】アンサンブルにて楽曲に対する表現効果を考察。自分なりの解釈で、表現練習。コーラスワークの練習。 【課題曲⑥】パフォーマンスの練習。→動画チェック。
【後期】 25～27回目	【課題曲⑦】楽曲の考察と、歌唱表現の練習。コーラスワークの練習。 【課題曲⑦】アンサンブルにて楽曲に対する表現効果を考察。自分なりの解釈で、表現練習。コーラスワークの練習。 【課題曲⑦】パフォーマンスの練習。→動画チェック。
【後期】 28～30回目	【課題曲⑧】オリジナル楽曲を課題とする。楽曲の考察、歌唱表現の練習。アレンジの思考。資料の作成。 【課題曲⑧】アンサンブルにて自身楽曲アレンジの思考を他パートへ伝える。表現試行。 【課題曲⑧】パフォーマンスの練習。→動画チェック。
【後期】 31～34回目	【課題曲⑤～⑧】ライブ発表会に向け、各自選択曲(主にオリジナル)を復習。再度アンサンブルにて楽曲考察、歌唱、表現、パフォーマンスの練習。 【課題曲⑤～⑧】1年間のまとめ。発表会当日に行うステージでの流れを確認。 ■後期試験：課題曲の歌唱、演奏により「リズム / 表現力 / 他パートとのやりとり / 機材の使い方」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / 表現力 / 他パートとのやりとり / 機材の使い方」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音楽の表現に確固たる「正解」というものではありませんが、言葉や音、リズムによって感じる効果は概ね共有できます。その効果を自身の演奏だけでなく他パートの音やフレーズも交えながら習得していくことで、自身のライブステージや楽曲制作においてより明確に理想を具現化することができます。また、他の音をイメージすることで弾き語りでの表現力も高まります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	DAW I		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	DAW・DTM基礎 I	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■ 音楽アーティスト科 シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	幼少の頃から本格的にクラシックピアノを20年間学び、コンクール等で多数受賞。 現在は自身で作詞作曲をジャンル問わず行いながら、鍵盤などで多くの演奏サポートや制作に携わる。 これまでに発表した作詞・作曲作品、またアレンジした楽曲は80曲以上ある。					
授業概要						
Logic Pro X等のDAWソフトを用いり基本操作及び楽曲制作の基礎知識を習得します。 PC(Mac)の操作を理解・習得します。 音源制作を行う手順を一から理解できるようにします。 プロジェクトや作曲を行っていく上で、どのようなアプローチで楽曲制作していくかを習得します。						
到達目標						
・楽曲制作を行う上での基礎的なDAWの操作の習得。						
・ドラムパターンやコードの打ち込み、そしてサンプル音源の使い方などを覚えて、スムーズな楽曲制作を習得。						
・学生自身で作詞・作曲した作品を、DAWを用いて具体化することができる。						
・メロディ、リズム、ハーモニーを元とする基礎編曲の理解。						
・ドラム、ベース、ピアノ、ストリングスなどのMIDIノート打ち込みから、ギターやヴォーカルなどのオーディオRECに関するDAW全般の操作を習得する。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	logicの起動、終了、作成ファイルの管理/録音、デバイス設定/ステップ入力、リアルタイム入力、オーディオREC
【前期】 4～7回目	譜面の読み方/耳コピ曲を決める、前期までにこれを完成させる
【前期】 8～10回目	ドラム打ち込み(8ビート、16ビート、4つうち、フィル、クオンタイズ)/ドラム打ち込み(ドラマー、808kit、その他ドラム音色)/ベースの打ち込み(ルート、3th、5th、オクターブ奏法)
【前期】 11～13回目	ピアノの打ち込み(右手・左手のフォーム、ストラムとアルペジオ)/ギターの打ち込み(適正なポインティング、ピアノロール画面8va移動)
【前期】 14～17回目	シンセメロの打ち込み(メロディック、ポリフォニック、単音耳コピ)/ボーカル録音(入力レベル、パンチIN OUT)/バウンス、Googleドライブでファイルバックアップ ■前期試験:オリジナル楽曲の制作により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	ストリングスの使い方(アーティキュレーションの動かし方)(音色の種類、logic、コンタクト)/プラスの使い方(アーティキュレーションの動かし方)
【後期】 21～24回目	プラスの使い方(音色の種類、logic、コンタクト)/オートメーション(クレッシェンド、デクレッシェンド)/woodwindの使い方(特にフルート、sax)
【後期】 25～27回目	シンセの使い方(音の3要素、オシレーター)/シンセの使い方(フィルター、ADSR)/シンセの使い方(LFO、モノ、ポリ)
【後期】 28～30回目	オートメーション(ビルドアップの作り方)/サイドチェインの作り方
【後期】 31～34回目	コンプ・EQ・リバーブの使い方/ディレイ・コーラス・モジュレーションの使い方 ■後期試験:オリジナル楽曲の制作により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	作詞・作曲は、音楽業界の中核となるものであります。楽曲がなければ、レコーディングもできないし、ライブもできない、PAや照明などの業種も存在しなくなります。 アーティストは楽曲を作成し販売をする商売です。その為に必要なノウハウをDAWを使って勉強していきます。
備考	